

# えっとうだより

オ5号・'91.2.15・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

## 今週の野宿者

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
2/7(木)	はれ	218	26	60	112	20		22
8(金)	はれ	274	32	44	107	91		42
9(土)	はれ	277	34	54	120	69		子ども72 大人48
11(月)	はれ	236	51	13	93	34	梅田20 中之島25	21

## < 病院 >

一般に大阪市の役人は、「釜ヶ崎の労働者は、辛抱が足らん」とよく言う。

ほんとうにそうだろうか。

今週も夜まわり打合せ会でこんな報告がなされた。二つとも、釜ヶ崎の労働者が多数入院している病院での出来事である。

土曜夜まわりの日本橋コースの話。

一人の労働者が、体の不調を訴え、入院を希望した。火曜日、リーダーの一人が、その労働者と一緒浪速区福祉事務所に行き、生活保護の申請をして、入院が決まった。病院は松原市にある明治橋病院。何度か行ったことがあるが、比較的ましだと思って来た。

ところでである。病院に着いた労働者は、四時間待たされたが、病院職員から一言も声をかけられなかった。辛抱たまらず、帰って来て、もとのところで野宿していた。次の土曜日の夜、さきのリーダーと出会う。リーダーは、一瞬「おや」と思った。当然である。

あれだけ入院したいと言っていたのに、一週間後、同じ場所野宿とは、「なさない」と思う方が自然。しかし、わけを聞いて、それこそ怒りがこみ上げてきたと言うのだ。

この報告のあとで、同じ事件が金曜夜まわりからも報告された。その労働者もやっと阪和病院に入院が決まるとにかく病院へついた。ところが、二時間たっても何の指示もない。業を煮やした労働者は、喜望の家に電話を入れる。「二時間も待たされたが、病院は何もしてくれない。お世話になったの一言お礼の電話をして、病院を出る」とのこと。

びっくりした喜望の家のスタッフがタクシーで病院へとんでいく。このケースは、幸い電話の直後に入院手続きを始めたという。

この対応一つを見ても、病院が、釜ヶ崎の労働者にとんな態度でのぞんでいるのかが、ミエミエである。これは、「労働者が悪い」と誰が言えるのか。 (Q)

## 各グループの 報告と感想

木ようび 7日

木曜日の学習会。今年はテーマを決めずにその時の状況によってやったりやめたりをまとまっていなかった。一年を通して夜廻りを行なってる軟々だが、何も話し合いをしない内に又、冬がやってきてしまった。そしてもう、2月の半ばというのが現状である。

今週は、夜廻りに参加しているだけではわからない最近の釜ヶ崎の様子(外国人労働者、女性労働者...など)について話し合いがもたれた。幸い木曜グループは日雇い労働者が多いので個人の体験として話が出た。

釜ヶ崎は、山谷や弄とちがい、外国人と云っても中国人、韓国人だけと思われているが、現場でインド人に会ったこともあるし、自分はフィリピン人数人といつも仕事をしている。そして教えられている。日本人である自分の知らず知らずに身につけている変な感覚。

仕事にかかったら、のどの乾き、生理現象さえもあと何分で昼休みとしんぼうしている日本人である自分。彼らは、行きたくなれば行く、本来は当然なことである。故に彼らは、あまり働かないと云われている。

どちらが人間らしいか、日本人は働きすぎで体力を増す傾向にある。よいことと思うが、毎日の仕事をトイレに行くこともカマンしながら過ごすことのない様にしなければ...

国際化時代と云われて何年もたつが、ちがいを  
を知ること、認めることがオードと思う。

何か、わけのわからんノーマキを書いてしまった。



金ようび 8日

学習会のテーマは「釜ヶ崎のアルコール問題」で、アルコール依存症という「病気」について考えた。

特にこの病気が「病気」として認められず、十分な治療を受けられず、社会から「ナマケモノ」的にはじき出されている事、そんな差別のために寄場に來ざるをえなかった人が多いことなどが話された。

この病気になってあらわれる表面的な問題にとらわれるだけでなく、どうしてアルコールに依存する生活になるのかを考えることにより、自分達の社会が高ストレス社会であることに気づくことが必要。

他の「薬物依存」「拒食、過食症」「こどもの不登校」なども、こういった社会的環境の中に出てきている「こころの病気」の問題である。

そんな環境を通して、寄せ場にいる労働者について考えると、心が傷つかず、酒にたよらないで生きていくことのむづかしさを痛感した。

今回の夜回りをはじめとして、この釜ヶ崎に来たのもはじめでした。

うまく言えないけれど、今日、来て良かった気がします。

今日は、南回り。変な緊張感と不安が何か私からトラブルを起こし、足を引っぱったり……でも、なんとか無事に帰れました。

今日のことだけでは、釜ヶ崎を理解できないと思うけど、でも今日は来て良かった。またみんなに会いたいです。釜ヶ崎が少しでも好きになれるように、機会を使ってここに来たいです。

又、教会を通じて、何か協力できることがあれば遠慮なく言って下さい。

(神奈川・E)

私があたたかい部屋であたたかい布団にくるまってねている時、寒空の下でねている人がいるというのを、はじめで実感した。

釜ヶ崎の現状、そこに住む人々の生き様をこの目で見て、私の頭は混乱状態です。(T.)

キレニ オソージ  
シマヨコネ



## 土ようび・9日

5回目の学習会では、「アイヌの生活と労働」というテーマで、4つの資料を10人程のクルーにわかれて読み、感想を含めて発表しました。

1つ目の文章は、菅野茂さんの「アイヌの碑」より「和人の奴隷だった祖父」2つ目は同じく「アイヌの碑」より「出稼ぎ少年の青春」3つ目は昭和58年4月に聞き取りした決田寛さん(大正9年生まれ・少流郡平取町)の「ニ風谷のエカシ・明治43年ロンドンへ行く」4つ目は昭和58年2月に聞き取りした秋沢クラフ子さん(明治30年生まれ・旭川)の「エミカとフ子」より「思い出のひとつ」でした。

これらの文章に共通するのは貧しさですが資料④に「わたしが生まれた家は、コタンコロク(村長)の血統の家だったからイヨイキ(虫壇)もいっぱい家財もあったが、明治40年旭川のアイヌは近文に寄せられ、48戸の寒い極小屋に住まわされたので、おあぜい死んだ。前は五町歩の土地があったが近文では一町しかなくまお下水掘りをしなければ畑にもならないほどの悪地だった。そういう所に押し込められたから食べることもできず男の人は外に仕事に出る。食べるものがなくアイヌの人を追い出した後に来た師団の兵隊の残飯を買いに行った」と書かれています。

中1の陽子ちゃんは、「タイヤファイリセンの人たちみたいや」と話してくれました。

今まで平和に暮らしていた人達が強制的に  
移され生活に困るようになるのは、タイ、フ  
ィリピンそして長町から釜ヶ崎に移動させら  
れた人達にも共通しています。

これらのことを今までの学習会を通じて理解  
していることもたちの感性をすばらしく思う  
と同時に頼もしさを感じました。(M)



おやのふりみで こはそだつ

ウマワブイデ  
イキマヌヨ。

オトサンオカサニ  
アンヒトサムイニ  
ハダカテタイショブ?

月 ようび・10日

はじめてこのパトロールに参加しましたが  
こんなにも多くの方が路上を明かしてい  
るのには驚きました。毛布やおにぎり、みそ  
汁を配っていましたが、神経痛の方などの役  
に立てたかどうかよくわかりません。

仕事をしなければお金はなくなるだけだし、  
お金がなくなれば死を待つだけなのでしょう  
か、仕事ができるようになるためにはどうし  
たらいいのでしょうか。

僕たちができるのは何なのでしょう

(京都市・Y)

初めて釜ヶ崎の労働者の真の肉体を見たよ  
うな気がしました。二月のこの寒い夜中に野  
宿するという事は、体を温めることは当然で  
ある。しかし仕事が出来ない体なのでトヤに  
泊まるお金がない……。こんな事情もあり仕  
方なく野宿している人達を見て非常に悪循環  
だなと感じた。しかし僕達が出来ることはい  
つという悪循環を直すという大きなことから  
始めるより今やっているような毛布やおにぎ  
りを配ったりする小さな行動を続けていくこ  
とが大事なのではないかと思う。

こういった意味でも僕達はこういった労働者  
の現状を少しでも多くの人々に伝え、具体的  
な行動に移せる人々をよりたくさん増やして  
いきたいと思います。(Y)

駅の前で下半身裸の状態で70才ぐらいの老  
人を見つけた。いまにも死にそうな老人に驚  
いたと同時にもう一つ信じられない思いをし  
た。それは、人通りも多く駅員もすぐその  
場所で誰もパトロールの時間まで救急車を呼  
ばなかったという事実に対してだ。

「人の命が軽い街」残念ながらそれが面成の  
印象だ。人に物を与えるというのは難しい。  
本当の誠意がなければ「カッコつけるな」と  
どなられるからだ。

これからもここに来続けたい。(C)

## おわび

「月曜夜まわり」の感想は、編集ミスで  
2月4日分を掲載させて頂きました。

# えっとうだより

第6号・'91.2.22・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

## 今週の野宿者

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
2/14(木)	はれ	220	27	60	67	66		26
2/15(金)	あめ	302	24	61	117	100		41
2/16(土)	あめ	247	11	50	123	63	こども47 おとな37	
2/18(月)	はれ	193	12	22	92	67		30

## 〈ビルの谷間に〉

越冬担当者会議の席上で、釜ヶ崎とその周辺で野宿する労働者がへっているが却ってJR関西線湊町よりなんばの高島屋の方向に居るのではないかと問題が提起された。ある晩現状を体験するために電車を行ってみた。JR新今宮駅のプラットフォームに立って驚いたのは、もう12時近くだというのに多くの人々が電車を待っているのだった。湊町に着いたらこれまた電車に乗って帰ろうとする人々が次々と改札口を通過して行く。駅を出てなんばに向うと同じように会社員と思われる男女が流れるように駅に向ってくる。これほど明るく、これほど人通りが多くては野宿もできないだろうと判断する。事実露路の方をのぞいてみても寝ている人は見当らなかつた。それにしても「釜ヶ崎」と「なんば」は歩いて30分とかからない距離にあるのにこれほど様子が異っているのかと改めて感嘆するのであった。釜ヶ崎の夜は早く、午後8時過ぎ

れは己に夜更けの感がある。

街中を歩きまわり、道頓堀を通り高島屋の前まできた。12時を過ぎると人通りが少なくなる。それを待ち構えていたように「だんぼあゑ」を持った人影が集まってくる。そして高島屋のシャッターのしまった玄関口やビルの谷間に腰をおろし始める。これが都会の夜中の顔なのだと思う。

数年前、釜ヶ崎クリーン作戦が始まった時野宿を強いられていた労働者は周辺へと散らされて行った。そしてそこでも又追いやられ今はただ人のねしまるのを待ってビルの谷間に寝場所を求め。3年前、国際居住年が開催され、ホームレス(住居のない人々)に対する運動が世界的に展開されたがあれは日本にとってなにを意味をしているのだろうか。路上の住居を奪われた人々がただ次の場所を求めて夜更けの移動をくり返している。

問題はなにも解決していない (N・S)

## 各グループの 報告と感想

木ようび・14日

最近、「ありのまま生きよう」ということについてのある文章を読みました。これは、協友会のテーマ「人を人として」に通じると思うのですが…。そのなかに「病気や障害があってなにが悪いのか、病気や障害というものがわたしたちの人生、あるいはこの社会の中で意義をもっているのではないか」「病気になったら人間はおしまいといった考え方は、知らぬうちに病者、障害者を差別することにつながってゆく」「障害はなあさなくてよい。ありのまま生きるとなにが悪い」というようなことが書いてありました。この文章は私にとってかなり大胆な意見でしたが、又とても大切なことに気づかされてくれたと思います。そもそも私達の社会には「病気は悪いもの」という考えがあって、昔は病気や障害は悪霊につかわれているからとか悪いことをした報いというような考えが多かったと思います。そして今でもその風潮は残っているのではないのでしょうか。私のなかにも「病気より健康が11に決まっている」という思いがありました。しかし本当にそうなのか、今は正直いってわからなくなっています。私は今まで夜まわりで出会う労働者に「体、どこか悪くないですか」と尋ねていたのですが、「体が悪い」という表現自体おかしいのでは、と思い始めています。知らず知らずの

うちに健康でなければ悪いという価値観を他者に押しつけることの恐ろしさを思います。

そういうわけで、これまでの考え方を根柢から覆されて、(夜まわりを含めた)いろんなことに積極的になれません。でも今の自分の状態を十分に味わうことが「人を人として」ありの手に受け容れることにつながるのかなとも思っています。

ところを「お元気で」に代わるあいさつを「ありのままのあなたに寄り添ってほしいんです」といった意味を持つ、キザじゃないのありませんでしょうか。

今のところ土曜夜まわりで教わったアイヌ語のあいさつ「イアンカラフデー」(あなたの心にずっと触れさせてください)一番気に入っています。

(M・S)



## 金 ようび · 15日

今回の学習会は、「釜ヶ崎と私」のテーマで討議する事となった。

司会者と、他に一人、アジアでの援助活動に参加した経験のある人が居り、共に、その経験を通し、海外で何かをする事より、日本人として日本で(社会構造の問題等に対し)戦いを始める事を求められた経過と思いを話して下さり、そこから話合いが始まった。

戦がなくとも、当面は済ませられる我々の「日常生活」があり、反対の意志表示をする時にも、つい知られた名前の下に付いてしまう我々の中の権力志向の問題が話された。

又、「自分は小さい者だ」と謙遜そうに語る事が、何もしない事の弁明になってしまうこわさについての指摘があった。

更に、戦うと言っても、どこで、どの様に戦い、あるいは意志表示をして行くのかと言う所で、色々の意見が出された。

結論の出る話ではないが、次回も継続して討議する事となった。



ワシの子どもと昔はなあ---



今日、日雇いに行ってきました。日当、その他の条件も全く確認せず、最初に声を掛けてきた人に手配されて尼ヶ崎へ働きに行きました。どんなところへ連れていかれ、どんな仕事をするのかと思ったら、河口で海岸地区閘門(改良)築造工事というのをしました。仕事は埋め込んである鉄管に刃利を入れ、水抜きをし、刃利をならすというものをしました。初仕事への好奇心と緊張感からかなりはりきりました。すると一緒に働いていた日雇いのおじさんが「ぼちぼちやりや、兄ちゃん。けがだけはせんようにな」と優しい言葉をかけてくれました。すごく心に響く言葉でした。おじさんは自分の経験から私を気付かせて言葉を掛けてくれたのかもしれませんが。

日雇いのおじさんで決して気のいい人たちののではなかろうか。今日の夜廻りを話したおじさんは見ず知らずの私に自分の境遇を涙を流して話してくれた。2人の日雇いのおじさんとの出会いを短絡的にそう思ったのだ。(V365・A.)

## 土ようび・16日

### 「学習会」

今年の学習会は、うちのぜんぜん知らない歴史や出来事を、日本のかくされたじつたいをいっぱい知った。今日も知ったことがいっぱいあった。やっぱりこの世の中は、力の強いものがしはいていくのだろうか。いくら心がこおっていても、やさしさの心をなくしてしまった人でも、力の強い人達がこの世で一番強くなるのか。うちは、いくら弱くても心にぬくもり、やさしさがあればいいと思う。ぜったいに力だけでは世の中がしはいてきても人はしはいてきないと思う。みんなはついでいかなければ、けれども心がやさしければ、いくら弱くてもみんながついていくと思う。

うちが一番びっくりしたのは、歌で自分の心を伝えてきた人やアジェンデと言う人の話を聞いた。うちはここでやっぱり心がきれいな人にみんなはついていくと思った。

いつもの学習会でもそうやけど、なんでというほどいろいろなことを知る。それを聞くたびに、なんで大人の人達はほんまのことをおしえてくれへんのやろうと思う。

“本当にあったことは、いつかはわかることなのに……”と思う。だからやっぱりうちは本当におこったことはちゃんと大人達の口から聞きたいと思う。 (中1・かずえ)



### 「学習会と夜まわり」

今日の学習会は、ビオレッタ・パラという人の話をしました。話を聞いていたらその人は、もじのない所の人達が言っていることを歌にしてみんなに勇気とかあたえたりすごいと思う。そしてチリの人達の戦争のとき、ピクトリア・ハラが運動場みたいな所に3000人くらいの人達がじこめられて“人生ありがとう”をハラが歌ってそのあとアメリカの人達がそのハラをまぶギターがひけなりのようにゆびや手をきってそのあとうぶをきってというふうにして、あとの3000人もみなごろしにしたと聞いた時ほんとになみだがるようになりました。

夜まわりは、木津にいきました。

今日は、ぶめきんがかぜをひいていたのかわりにあいちゃんがいきました。

今日は、字のとってもうまいおっちゃんにいました。そのおっちゃんは、去年木津に行った時にいて、今年は1回も会わなかったおっちゃんでした。 (膳・亜矢子)



僕と夜回りとの付き合いも、もうかれこれ3年ぐらいいなると思います。

初めて釜ヶ崎に来て感じたあの緊張感は、時



々釜ヶ崎以外の地域にいる時に思い出し、夜回りをしていている時に思い出さないのはなぜなのか自分でもよくわからない。自分が自分の存在することによって、抑圧されている人たちがいることが許せずに、釜ヶ崎に行き、感じ、自分をどうすれば差別者として告発できるかと、それはかり考えていたのに、いつのまにかそんなこととこかへ行ってしまったようです。

「ユタヤ人がナチスドイツに抑圧されたように、今度はユタヤ人がパレスチナ人たちを抑圧している」という言葉には、僕への差別性の告発があったはずなのに、だんだん僕の中で、そういうことが書きなくなっていくのがよくわかるのです。

僕が夜回り中に労働者たちに話しかけた言葉「おっちゃんは大じょうぶやもんな」とか「酒のみすぎたらあかんぞ」なんて、いったい何が誰に大じょうぶで、酒のみすぎたらあかんぞって言葉の中には、いつも「酒ばかりのみやがって」ってというのがあったように思う。

釜ヶ崎に来てもう何も感じなくなった以上僕は労働者たちと合えるはずもないし、自分自身の中の差別性を告発できない以上、物を与える立場になんの疑問も感じなくなった以上、労働者たちと話しをできるはずもないのです。

もう少し僕が僕に対して強くなれる時までひとまず夜回りに参加するのはやめようと思います。今はそうすることしか方法はないのです。

(金光敏)

## 月ようび・18日

今日の学習会では、大和中央病院のズサンな医療の実態と提訴について学びました。

居場所から一番近い病院に運ぶというタテマエで釜ヶ崎の労働者の救急はそのほとんどがこの大和中央病院となっています。救急で明日まで待てない状態にある労働者が運び込まれているのに、よく診察もせず「左胸が痛い」「左上腕部が痛い」という明らかな狭心症の訴えであったのににもかかわらず、「神経痛」と誤診しMさんをそのまま帰らせました。

再入院してからも心臓に対する治療は行わずMさんは心臓を破裂させて亡くなりました。次から次へと送り込まれる労働者を喰いものにし、その医療の中身が空っぽで全く人を無視したこの病院の有り方は問われるべきです。

「ろく」と言われる重労働の中、ケカヤ病気は一番つらいし早く治したい、肉体的にも精神的にも弱り果てている時に、労働者を人として尊ばず医療の専門家という権力を用い、自分達の営利目的の為だけに一番弱い立場に立たされている人を利用する、ということは絶対に許されはなりません。

医療の基本を日本が今一度問い直し、対策を打ち、又社会の弱い立場に立たされている人々へのこのような差別医療を糾弾していくことで、人を人としてみていく、人のいのちを尊ぶということの理解を切に求めます。

(T.)

# えっとうだより

オク号・91.3.1・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

今週の野宿者

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
2/21(木)	はれ	168	24	45	47	52		
22(金)	はれ	282	29	43	118	92		55
23(土)	はれ	235	27	47	117	50		子ども 22 おとな 57
25(月)	はれ	223	44	51	82		梅田 25 中之島 21	38

## 〈湾岸戦争と釜ヶ崎〉

イライラが続いている。湾岸戦争の為である。ニュース源である新聞の報道姿勢とそれを見ている人の反応に愕然とする。遠く離れている釜ヶ崎との関連を考えてみたい。

昨年10月の釜ヶ崎暴動は大きなニュースになった。今、ニュース番組は湾岸戦争一色といっている。が、どちらも歴史的背景、構造にふれていない。余りにも片寄った報道である釜ヶ崎についていえば、17年振りの何回目の暴動、何人のケカ人と警察情報である。一方湾岸戦争では、クウェートを侵略したイラクに対しての正義の戦いをアメリカが行っている。当然、扱いがちがう。米兵0人死亡。イラクは0台戦車破壊。人と物との対比である。私個人は、イラクのクルド人に対しての弾圧、アメリカのパナマ、グレナダの植民地化にもイライラしている。もともとこの戦争は、英・仏などによる西洋キリスト<sup>諸国</sup>による中近東、アフリカへの植民地政策に根づいて

いる。使われている武器は、一体どの国が製造し、売っているのか。

協友会では、“人を人として”のテーマを設けている。物や金が優先し命がかろんじられている社会。戦争という人殺し行為がビジネスにされている社会。戦争を経済の面からしかみえない人々。死、飢え、世界中で多くの人が苦しんでいる姿を酒をのみながら見て語ることの出来る器用な日本人。そこには、他者のいたみへの共感は生まれてこない。

夜廻りは、多くの中の一つの働きである。

この冬、すでに42名もの方が無念な死をされた。イライラは収まらない。

28日夕刊トップ記事は湾岸戦争終結へ、イライラは増々強くなる。(N・F)



# 各グループの 報告と感想

木 ようび 21日

この日の学習会は「大和中央病院」の誤診による死亡事件についてでした。「えっとうだよ!」でも時々話題に出ましたが1989年4月23日、労働者のMさん(遺族の希望により仮名)は胸の痛みのため救急車で血所の大和中央病院へはこはれましたが、当日の細井医師は「肋間神経痛」と誤診し、Mさんを返してしまいました。その結果、心臓病だったMさんはますます病状を悪くし、翌24日に再び胸の痛みで友だちにつきそわれて大和中央へはこはれましたが、その日の高見医師は「結核」と誤診し、心臓に対する処置を全く行なわず、Mさんはそのまま心臓を破裂させて七くなったのです。

学習会では「大和中央病院の差別・殺人医療を糾弾する実行委員会」の2人が話をし(そのうち一人はほくですが)24日にMさんと一緒に救急で大和中央に行った友人のSさん(一応、仮名にします)が、その日の様子を詳しく説明し、その日「結核」だということに安心してドヤにもどって数時間して病院に行ってみるとMさんは七くなっていて、本当におどろいたということ、その後裁判を行うための「委任状」をとるためにMさんの兄弟をたずね歩いて何度も「かわわりたくない」ということでことわられつづけ、最後に和歌山の弟さんのところでようやく「そういうこ

となら大和中央に対して白黒をつけるまでやってほしい」と委任状をもらうことができたこと、などなど熱心に話してくれました。

大和中央病院は釜ヶ崎で救急車を呼ぶと5分の4の確率でここにはこはれる、という病院です。そしてこの病院は日雇労働者を相手にして日ごろスサンの医療をもうけをあげてきたわけです。

今「糾弾隊」は裁判をみこし、できれば大和中央の救急指定とりけしまでやっていきたいと思っています。それは日雇労働者への無茶苦茶な医療に対して、「人間らしい扱いをしろ」「そういうことは許さない」と行動を示すものです。学習会では時間一杯話だけになってしまって、みんなの反応がよくわからなかったのが残念でした。でも一万円以上のカンパ、ありがとうございました。

裁判や抗議行動は長年にわたる地道なものになると思いますが、その中で多くの人とむすびついていきたいと思っています。



## 金 ようび・22日

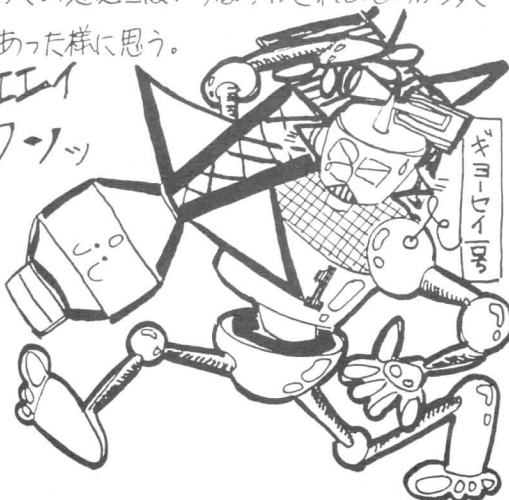
金曜夜まわりも、3月1日までの2回となったこの日の学習会は小グループに分れてこの討議をする事となった。

最初の内は、全体の学習会と同じ様に、なかなか意見が出て来ず、重い雰囲気であったがそれぞれのグループで1~2の方が口を開くと、それが口火となって他のグループも熱心な話し合いが始まった。このため、各グループの話し合いの概要を報告してもらって予定も変更して、1時間近くを討議の時とした。

初めて参加した人、時々顔を見せる人、何年も継続して関わって下さっている方、それぞれに問題意識も『私にとって、なぜ釜ヶ崎か』という思いも、それぞれに違うのであろうがそれを率直にぶつけ合う中で、夜回りをする意味を見出し合えればと思う。

各グループの詳しい報告を聞く事は出来なかったが、あつにそれぞれの場で、社会や自分の問題に取り組みながら、その取り組みの延長あるいはつながりの中で釜ヶ崎に来ておられる方々の意見には、うなづかされるものが多くあった様に思う。

IEI  
クノッ



## 土 ようび・23日

「学習会」

今日の学習会は「キツネのチャレンジ」という本の中の一部のことを勉強した。

その中で一番印象に残った言葉は、「川にいるさかなや山の木の奥の奥も、すべての動物たちが、みんななかよくわけあって食べるものだから、けっして人間だけが食べるものと考えてはいけません。」という文でした。

うちは、これを「自然や土地は、すべての人間、動物達と植物達が、(みんななかよくらすために)あたえてくれているものだからけっして人間だけが生きてゆくためのものは考えてはいけません」という文にもできる。日本人はそれなのに、アイヌの人達の土地をうばっている。

もし、日本人がアイヌの人達みたいに、植物や動物達と話したら、そんなやさしい心があれば…。

うちは思う。本当は、アイヌの人達はうちのべきなかったこと、べきないことを、やさしい心を、一番大切なものを、忘れかけられている心を、たくさんもっていたと思う。

話さなければかい来できることをすぐにかどかい来させようとする。

そりゃあんたらは、いいかもしれんけど、うちはどうなんの。

植物は、動物は、いくら考えてもあんたらの考え方わからんわ。(あんたらとは、ブッシュ、フセイン、海部などのこと。)

キツネのチャレンジで、魚というものは、



# えっとうだより

オ8号・91.3.17・釜ヶ崎キリスト教協友会・641-7183

## 越冬最終週の野宿者数

		総数	北	南	天王寺	日本橋	その他	参加人数
2/28(木)	あめ	134	22	56	56			
3/1(金)	くもり	305	27	57	90	131		42
2(土)	はれ	249	26	49	66	108		おとな32 こども22

## 〈行路死した労働者のこと〉

越冬の「合ことば」は、「生きて共に春を迎えよう」である。

今年度はどうだっただろうか。

昨年12月1日から2月25日までの行路死亡者が、42人と聞く。これを聞いたとき、「ウソー」と叫びそうになった。例年の50%アップである。人をパーセントで云々するのは失礼とは思いますが、あえて統計としてみる場合、その多さにあらためて驚く。また、わたしたちの無力さを感じる。

それぞれのグループは、懸命に越冬と取り組んできた。でも越冬突入の12月27日、医療センターの軒下で労働者が死亡した。

あるいは、3月2日の早朝にも同じ場所で、労働者が死体を発見されている。

いろいろ言い分も出来るが、労働者の生命はもどって来ない。

ここ数年の行路死は、ドヤ(宿泊所)内がふえた。昨年度は、ついに路上をドヤ内死が

越えた。この原因はどこにあるのだろうか。寄せ場の分断が進んでいる結果とも言える。隣りの人は、何する人を。自分のことで精一杯なのかもしれない。建物の構造的なことまで一因であろう。個室化してお互いに干渉し合わない。この四にあるいは問題解決の糸口があるのかもしれない。

ところで、今年に行路死増は、決して釜ヶ崎だけではない。名古屋笹島の越冬でも12人の労働者が路上で死を越えた。今年の寒波もあるいは関係しているかもしれない。

寄せ場の行路死が例年になく増えたのは、政府の労働政策、福祉政策とも無縁ではない。たとえば、90億ドルの政府支出は、生命のためではなく、人殺しへの支援であった。

この冬は、このことを忘れてはならない。

越冬期間中は、まさに世界中が人殺しに熱中した期間だった。

(N.K)

## 各グループの 報告と感想

### 金ようび / 日

学習会も最後を迎え、「夜回りの意味」について、前回のグループ討議を踏まえ話合った。対処療法的な形しかない夜回りで良いのか、根本的な所での変革まで目指さねばならないのか、おい分と議論になった。また、夜回り後の対応についても、現在の金曜グループのあり方で良いのかという意見も出た。

一方で、夜回りが必要でなくなる様な社会への働きかけをしつつ、他方で夜回りを行う時、拠点である喜望の家の方針が絶対と言うのではなく、金曜夜回りという運動体として、夜回りやその後の対応の仕方について参加者皆で話し合いながら作り上げてゆく事を再確認した。

継続して参加してくれるグループが寂になって、段々に率直な討議が出来だした様になる。その討議を通し、夜回りやもっと根本的な問題にまで話し合いや行動が深まって行く事を願っている。

ワカイトキワ  
バリバリハタライタノニナ



もっと、市が、えんじょすればいいと思う。また、けいさつも形だけやってても意味がないのだから、もっといっしょうけんめいしたらいいと思った。

何のためのけいさつなのか!

何のための市なのか

両方とも無用の長物という言葉がびったりだと思った。

P.S. 投書をしようと思った。

(M・N)

釜ヶ崎越冬パトロールに今回初めて参加して7日目になりました。1回だけ来れなかったのが残念です。

声をかけることが少しなれたかなと思うけど、起こした後で、顔がホーとしている人に早くして(せかせせするか?)という感じで接している自分に気がついた。

寝起きの状態で何を言われているのかを自分自身におきかえたらどうなるのかなと考えさせられた。

戦前、戦中を生きぬいてこられた人には、もう仕事はせんじいよ、もう休んで下さいと心から話したい。

今の世の中になるように働らいたんだから、もう充分だよと、これからは私達が貴方達の変わりにやるんだからと。

有難とうのひとことを聞くと又来年も来ますよ、だからえ気に過ごして下さい。

(香里教会 N・M)

毎年、釜ヶ崎の様子が変わっているのを感じます。近代的ドヤ、きれいな道路等々……人の様子等々……しかし、表面がきれいになればなるほど、その中味が隠され、薄らしていきいます。

ありのままの姿で生きているのが釜ヶ崎だと思っています。みにくい自分の姿を見つつ、労働者の優しい人間性に触れることができるのが釜ヶ崎だと思っています。

(序部ルーテル教会 K. T.)

このはたの下には……



## 土ようび・2日

“オ8回・こども夜まわりと学習会”

中曽根発言をこの日に初めて知った。

政治家って、みんなこんなものなのかと思ったし、わりと中曽根と同じ事思ってる日本人も多いだろうと思った。

そういう思い込みってこわいと思ったし、おちよくなって言いかもうっとしかった。

で、ビデオを見てアイヌの女の人がアイヌの文化、言葉、歴史をしが島の小学校の子どもたちに招待されて教えてました。そのアイヌの人のあいさつの仕方とかを見た時にアイヌ民族って人間らしいなって思った。

今まで“人間って何?” “人間ってどういうものでしょう”みたいな事を考えた事わりとあった。でも、はっきりした答えは出なかった。でもビデオを見た時に“アイヌは心が見える距離で話す”と言った。それがすごく印象深く残っている。

アイヌ民族は文字をもたない。だからどういう生活をしたのかとかを調べるのとか大変やと思う。でも、アイヌの子どもに少しでも自分たちの民族の事を伝えていこうとするたくさんのアイヌの人達。それを受けついで行こうとする子どもたち。

でも、やっぱり差別はなくなってはいないし、へっともいけないし。考え方を少しずつかえていってほしいと思うし。あたしを含めて。

(西成高校3年 大谷 純)



## “今年最後の学習会”

今日が最後の学習会だ。いろんなことを知り、はあかしい思いをしたり、感動したり、いろんなことを聞いて思った。

アイヌの人達は、ほんまに一生懸命にうちらと仲良くくらし生きていたいと思ってるんだなあとはんまに思った。だのに日本人ときたら...なんぞこんな差別ばかりすんのやろ、自分らとちょっとでもちがう人達を見ると変な目で見るんやろ。

生まれた時から、人はそれぞれの体質でもんがあるだけで同じ人間にはかわりないのに、日本人はそれを知らんのやろうか。

アイヌの人達をほんまは見ならわなあかんと思う。アイヌの人達は昔から差別され続けてる。その苦しみを知ってる。けれどもアイヌの人達は、アイヌ語とか自分らの生き方を生まれてきたことも産へ教えていく。差別される苦しみを、うちの何倍もの悲しみを心がおかしくなるほどあじわっているはずなのに、けれどもアイヌの人達は、うちのことを信じてるから、きつと仲良くくらせる白がくると信じてるから、自分達の生き方やアイヌ語という言葉にはほこりをもっているから、こども達に伝えていくと思う。

うちも信じてる。ぜったいにいつかアイヌの人達とっしょになってみんなが心から笑える日がくると...



## 90-91 越冬を ふりかえって

### 月ようグループ (拠点・ふるさとの家)

90年度の夜回りが、89年度と大きく変わったことが、四点ありました。

① 南(本当の釜ヶ崎)の野宿者が非常に少なくなったこと。  
理由として考えられるのは、警察の対応の悪さから「シノギ」が増え、野宿者が周辺に出て行った。もう一つは「出会いの家」が出来たこと。

② 入院、入寮等の福祉関係が、89年度の183名から、90年度は52名と1/3以下に削減したこと。

このことは高齢者、病気又は身心の障害等の方達が減ったのではなく、福祉事務所、特に市電相の対応の悪さ、大和中央、杏林病院に代表される彼等が送り込まれる病院又は施設の問題などが考えられます。

③ 梅田グループを除いて、他の各グループ共、その場所に行けば、誰々さんが居るといふ顔馴染みの方が非常に少なくなったこと。

これは「街の美化」という名による行政の取り締りの強化のため、同じ場所での定住が出来なくなったのではないかと。

④ 以上の3点を踏まえて、従来通りの「マンネリ化」した「夜回り」を良いのかと言う声が、強く出てきたこと。

これからの協友会の活動は、ケアを心奪とする方々への福祉的な関りに留まらず、現役でバリバリ働いておられる一世代若い労働者達との連帯を求め、彼等の力による釜ヶ崎の構造悪の改革を模索していく必要を感じます。このことは決して不可能なことではなく、彼等の中には、大和中央病院を告訴されたS氏のような私達以上の真の「良きサマリアン」が他にも多勢おられると思うからです。

## 木ようグループ (拠点・旅路の里)

90年度最後の学習会は「えっとうだより」6号のM・Sさん、金光敏さんの垂い夜廻りに対しての思いを読み、夜廻りしているひとりひとりが何を感し、なぜ参加するのかを話した。内容的に活発な意見が出て話し合われたことは、云いがたいが野宿者に対して体の具合いをたずねたり、毛布を渡す関係だけでなく、釜ヶ崎そのものに熱い何かを感じ、ここを何か活動を行っていると言うより、教えられることが多いとの声が出た。

定められた時間に、定められた善意を行うのはたやすいことであるが、釜ヶ崎の夜廻りは死と向き合っているだけにしんどいし、無力感に落ち入りやすい。やめた方がよっぽど乗やとも思ったりもする。明るい展望が見えてこない運動は、実際シンドイ。

暖冬であったこの冬、今まではない多くの人々が亡くなりました。12月、1月、2月の3ヶ月で45人である。どんな思いであったろうか。会っておきたかった人、一言云っておきたか

った人…なかったであろうか。常に自分の周りには人がいてるし、人の中にいる自分にとって、余りにも悲しい死にわたるのではないかと、夜廻りの時にでも、いつでも、もう余り長くないけれど家族とかに連絡とってほしいとか、伝えてほしいとかなかったであろうか。そういった関係になるというのかひとりひとりと向きあった動きが必要とされていると思う。

秋は淋しいものだが、この春も淋しい。



金曜の夜廻りは、3月1日を一応終了。今年も、香里カトリック教会のクルーとルーテルの関西地区の青年クルーが継続して関わってくれた。

その中で、夜廻りをする事が本当に必要な事なのか、必要なら、なぜ、どのようにすべきか、様々の学習会と並行して話し合われた。

結論はもちろん出なかったが、今までは以上に、夜廻りのあり方を(喜望の家のスタッフの主導によるのではなく)参加者全員で作って、いこうという方向はできつつある様に感じた。

今後、それを引きついでいければと思う。

## 編集後記

＊  
釜ヶ崎に入って三年半、その間「苦しむ人と共に苦しみ、泣く人と共に泣く」と最初に持っていた格好良い理想と掛け離れた、様々な心の変遷がありました。粗暴な人、アルコール依存の人、なんの努力もせずべったり人にもたれてくる人、などに会うと一刻も早く

その場から逃れたいと思ったり、全く事務的に入院させたり、交わっていた友を心から受け止めることができず『行路死亡』し大きなショックを受け、祈ったり、離れていた教会の聖書グループにもどり、充電して又出直し、然し、何年たっても変わらない釜ヶ崎に空しさを感じ、祈りの中でキリストに八つ当たりしたり、又解放の神学を知りこれだと思ったり、揺れ動きながら彼等と共に居続けていると、だんだん自分自身が小さくなって

いくのに気がつききました。日常生活も小さくなり、社会も人も今迄と違って見えてきました。ルカ六章二〇〜三六節（キリストの幸いなるかなの教え）がわかって来ました。自分が解放されていくことを実感する様になりました。（T〇）

＊  
ゴールデンウィーク今年は代休連休が重なって大型連休となった。休みを如何に過ごすべきか。ふるさとを訪れる人、海外に旅に出る者、日本の内外は右往左往している時、連休は労働者にとって両手をあげての楽しみでも喜びでもないむしろ苦い思いで立つ。しかしメーデーは労働者の祭典のはず。昨日まで働いたきびしい労働条件、明日も変わらない状況が見えていながらそれでも精いっぱい働いているんだ！ 不正に対する怒り大き

く声をあげて叫ぼう！ 正當な自分たちの権利の主張を。三角公園で集会を持つ、労働者の数以上の警察と機動隊の盾に制御され物々しい警戒の中での行進こんな祭典があつていいのだろうか。四日、大阪府会議員候補者K氏は選挙演説の中で、「あいりん地区対策として、愛隣センター周辺の環境美化・治安の推進に力を入れます」と唱った彼は当選した。90年10月2日の釜ヶ崎の抗議行動に対する批判がこのような主張となり市民が喝采していることに怒りを感じる。最近の釜ヶ崎の周辺にはバタ屋さんの数が減っている。夜店の前に寝られては支障があるのだろうか、店のシャッターの前方に二重のシャッターとして設置した日本橋の商店街、警察の夜まわりで移動をうながす。しのぎが来る。落ち着いて野宿もできなくなつてしまふ。だから叫ぼう力強く、「権力に屈することなく自分たちの権利を。」メーデーに思う。

＊  
（O）

今年、この日の夜まわりは、今でも印象に残っている。子ども達のかかわり方は、新鮮で、労働者の立場に立つて行動していた。時間も決められた範囲も関係なく、とことんかかわっていく子どもの姿に感動した。多分この労働者にとつても心に残っているのではないかと思う。子ども達のかかわり方を見ながら、私にとつても一度、夜まわりのあり方を見つめ直す機会にもなった。しみじみ最近感じるけれど、子ども達の感性が素晴らしいなと思う。（I）

＊  
今年の釜ヶ崎メーデーに参加して驚きました。メーデーの行進よりもそれを警備する機動隊や私服警官の方が多いからです。しかもその歩き方一つひとつに「文句」をつけるのです。

＊  
これが昨年の十月二日にはじまつた労働者の人権闘争への「行政の回答」なのです。あの労働者が闘った同じ銀座通りを、機動隊の盾に挟まれて歩く労働者の姿をゆるしてしまふ今の社会（釜ヶ崎も含め）いったい何でしょうか。（Q）

---

協友会通信 21 釜ヶ崎1990年度越冬

- 発行日 1991年7月1日
  - 発行所 大阪市西成区萩ノ茶屋2-8-9  
旅路の里気付 06-641-7183
  - 編集 「協友会通信21」編集委員会
  - 印刷所 (有)木村桂文社
  - 頒価 500円
-